

目次

はじめに.....	1
第1章 大学の機能と歴史.....	3
第2章 大学の性格の変化.....	5
第3章 大学を取り巻く環境の変化.....	7
第4章 学習スキルの意義.....	9
第5章 大学での学びと単位取得までのプロセス.....	11
第6章 資料の調べ方.....	13
第7章 本の読み方.....	15
第8章 ノートの取り方.....	17
第9章 質問の仕方.....	19
第10章 ふり返り方.....	21
第11章 文章の書き方.....	23
第12章 プレゼンテーションの仕方.....	25
第13章 提出課題の書き方.....	27
第14章 試験対策の仕方.....	29
第15章 考えることの4つのレベル.....	31
第16章 KJ法.....	33
第17章 クリティカル・シンキング（批判的思考）.....	35
第18章 ロジカル・シンキング（論理的思考）.....	37
第19章 マインドマップ.....	39
編集後記.....	41

はじめに

大学の一員となった皆さんに、『学びのナビ（学習ガイドブック）』（概要版）をお届けします。このガイドブックの目的と特徴には、以下のようなものが挙げられます。

- 大学での学びをサポートし、自分なりの学びの目標やスタイル、その成果を着実に得られるような「ヒント」を書いています。
- 大学での「学び」は多様であって、これが絶対的に正しい、望ましいというものは無い、ということを強調しています。
- 皆さんにヒントを授けることはあっても、こうすべきということを強要するものではありません。
- 私達は、精一杯工夫したつもりですが、十分ではないと思っています。ご意見・ご要望は、ぜひ聞かせて下さい。

『学びのナビ』の詳細版は、アカデミア・コンソーシアムふくしまのWEBサイトにアップロードしてあります。その内容は、

第1部 大学と学習スキル

第2部 学ぶ楽しさ・喜び

第3部 用語集

第4部 学習ポートフォリオ記入のために

という構成で書かれています。第1部では、皆さんの大学での学びに必要なスキル（本の読み方・ノートの取り方・提出課題の書き方や、知的生産・思考整理の方法など）を説明しています。第2部では、福島県内の各大学の教員がこのガイドブックの趣旨にあわせて執筆した原稿を掲載しています。学習面から生活面にいたるまで、さまざまな観点から大学生活をよりよく過ごすためのアドバイスが書かれていますので、ぜひお読み下さい。第3部では、大学生活に関わる様々な用語の説明がなされています。第4部では、この冊子に別冊として付けられている「学習ポートフォリオ」（この冊子の第10章でも簡単に説明します。）について、書き方の説明がされていますので、参考にし学習ポートフォリオを記入して下さい。

さて、この冊子は詳細版第1部の概略を示した概要版です。詳細版の他に概要版を作成した理由はいくつかありますが、その最たる理由は、以下で示すように皆さんをいち早く大学生活や学問の世界にお連れしたいというものです。



詳細版の内容は、皆さんにとって、やや取っつきにくい内容であるかもしれません。この概要版（本冊子）は、詳細版のポイントを抽出し、各章においてどんなことが書かれているのか、簡潔に提示したものです。概要が把握できたら、詳細版の文章を読んでみて下さい。詳細版にはほとんどすべての章末に「＜他の参考文献・情報へのガイド＞」が記載されています。もっと知りたいという人は、そちらの文献等も参考にして、自分流のスキルを身に付けてもらいたいと思います。早く自分流のスキルを確立できれば、早く学問の世界・大学の世界に入っていけるでしょう。大学にいる2～6年ほどの時間は長いようであつという間ですから、「いち早く」を願うばかりです。

各章には、簡単な内容の確認やふり返り用のワークシートを設けました。詳細版も参考にしながら、自分の言葉で記入してみてください。また、ワークシートだけが欲しい、またはワードで入力したいという場合には、アカデミア・コンソーシアムふくしまWEBサイトに専用のファイルが準備されていますので、そちらをご利用下さい。

第1章 大学の機能と歴史

<この章の目的>

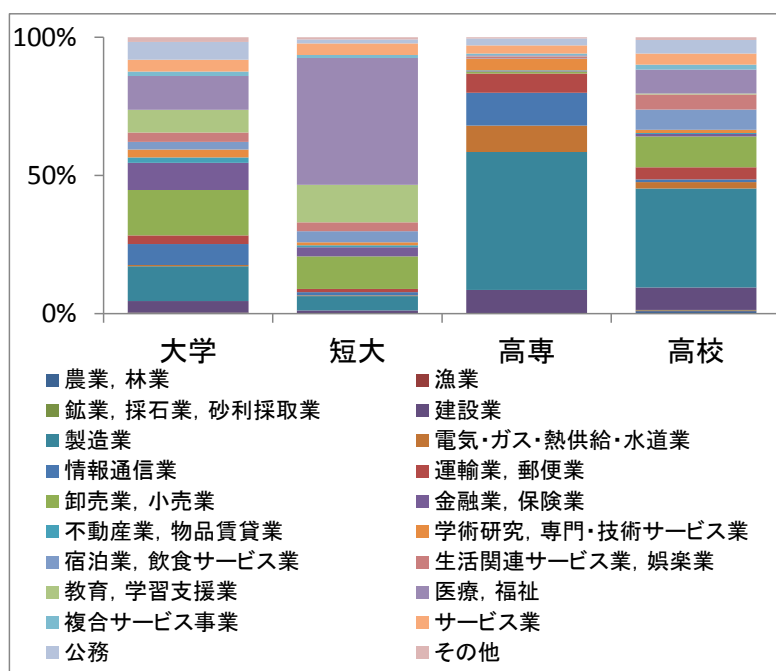
◎皆さんが入学したのは福島県内の1つの大学ですが、それは当然数ある大学の1つです。大学というのは、そもそもどんなところか、何をするとところなのか。今現在、どのような役割を果たしているのか。この章を通して、将来のこと、学生生活のことを少しでもイメージでき、皆さんのモチベーションが上がることを期待します。

○大学の歴史は長く、その淵源は紀元前5世紀のアテネにまで遡ることができるようですが、今のよう形になったのは中世(12~13世紀頃)のヨーロッパにおいてです。そこでの大学の機能は、**法学・神学・医学**の3領域の専門職人材の養成でした。

○その後大きく大学が変わるのは、18~19世紀頃と言えます。1789年にフランス革命以降のヨーロッパは新しい世の中になりますが、工学や農学等の**職業人の養成機能**も大学に付け加えられました。

○明治維新以降の日本では、当初から法・医・文・理といった伝統的な学部の他に、工・農・経済といった新しい**実学的な職業人養成の機能**を持つ学部が置かれました。

○太平洋戦争後の大学は旧制の大学や専門学校を下敷きに誕生し、主に高校を卒業した生徒を受け入れ、2~6年間の高等教育を行うようになりました。



○平成22年3月卒業生の進路を比較すると、高専と高校は製造業に、短大では医療・福祉、大学は他と比べて卸売業、小売業や金融業、保険業に多くの卒業生を輩出しているようです。特に大学で養成される人材は、現在は非常に幅広くなっています。

記入日（ ・ ・ ）

<「大学の機能と歴史」ふり返しシート>

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・世界や日本の大学の始まりは、どのようなものだったか

・今の高等教育の役割や、養成している人材はどのようなものか

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

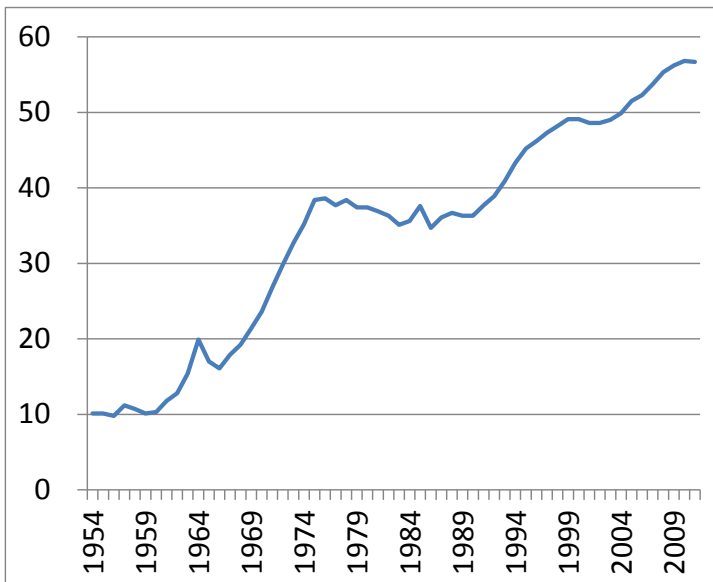
第2章 大学の性格の変化

＜この章の目的＞

◎大学の性格は、昔から一様ではありません。皆さんのお父さん・お母さん、お爺さん・お婆さんの時と今とでは、大学の性格が異なっています。昔と比べて大学の何がどのように変わったのか、また変わらないものは何かを理解することで、皆さんの大学生活を見つめ直すきっかけになると思います。

○旧制の大学については、法令上、国家のためのものと決められていました。

○戦前の大学数は48大学（1945年）と、それほど多くはありませんでした。



○大学・短大進学率（左のグラフ）は1960年頃には約10%で、大学はごく一部の限られた学力エリートのための教育機関でした。

○高度経済成長の時代には、40%近くにまで達しました。

○1990年代以降、大学・短大進学率は再び上昇します。今や2人に1人以上は大学に

進学している状況で、誰にでも進学のチャンスがある身近なものになりました。

○その結果、「みんなが行くから」「高卒だと不利かも・・・」と入学者も、多くなってきたと言われています。

○一方で、大学は義務教育ではなく、また大人への入り口であるので、大学教育に関するほとんどすべての事が自己責任です。これは、今も昔も変わりません。

○だからと言って、誰にも頼るなどとは言いません。困ったことがあったら、大学内のしるべき場所や人に相談してみてください。

記入日（ ・ ・ ）

<「大学の性格の変化」ふり返しシート>

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・大学の性格はどのように変わってきたか

・学生に変わらず求められるのはどのようなことか

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

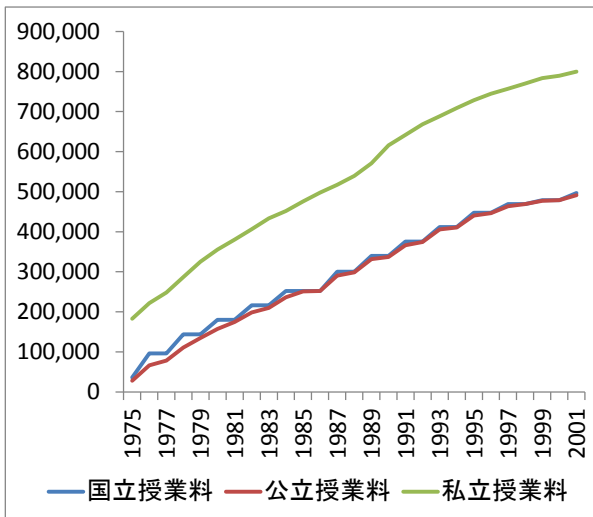
第3章 大学を取り巻く環境の変化

<この章の目的>

◎大学の性格が変化してくると、国や社会との関係は変化し、圧力も増してきます。圧力が増すということは、大学の教職員や学生に対して求められることが多く、また強くなることを意味しています。現在、社会からどんな風に大学や学生が見られているのか、何を求められているのか、考えるきっかけになると思います。

○従来の大学は「象牙の塔」などと言われ、社会への関心も薄く、また社会からも何かが強く求められることは少なかったと言えます。

○高度経済成長期の大学の急激な拡大は、特に私立大学の教育環境の悪化を招きました。そこで国は私立大学へ補助金を出すようになりました。



○私立大学に補助金を出すようになるとともに、国公立大学の授業料も値上がりをはじめることになります。1970年代以降国公立大学とも授業料は一貫して高くなってきました。

○授業料の値上げは、私立大学への助成開始・国（公）私格差の是正の他に「受益者負担主義」の考え方にも支持されていたようです。

○グローバル化が進展する中で、日本の高等教育は国際的な標準から大きく下回っていると評価されています。それ以来、日本の高等教育は、改革を続けています。

○1990年代以降の不況を背景に、国からの大学への予算は減少しています。

○いろんなところから、大学教育によって要請されるべき能力が提案されています。代表的なものに、「キー・コンピテンシー」、「ジェネリック・スキル」、「エンプロイアビリティ」、「社会人基礎力」、「学士力」などと呼ばれているものがあります。

○こうした国や社会との関係の中で、皆さんは学生生活を送っているということです。

記入日（ ・ ・ ）

<「大学を取り巻く環境の変化」ふり返しシート>

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・国から大学への補助金、大学授業料等はどのように変化してきたか

・大学教育には、どのような能力の育成が求められてきているか

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

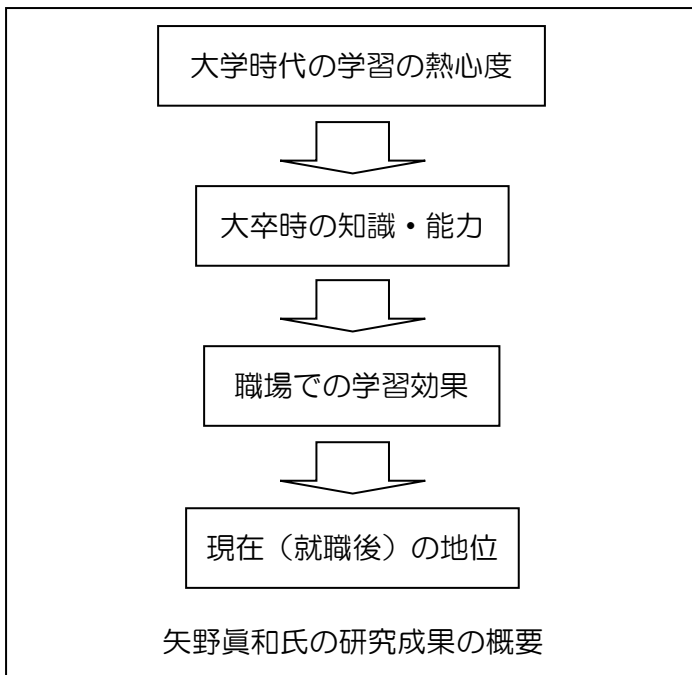
第4章 学習スキルの意義

<この章の目的>

◎大学では、高校までの勉強方法とは大きく異なる点がいくつもあります。レポートの書き方やノートの取り方など、皆さんからすれば「すぐ知りたい!」という学習スキルは多いでしょう。それらは後で詳しく紹介しますが、**在学している間だけでなく、その後の人生のことも見越した学習スキルの重要性を理解してほしい**と思います。

○広義の学習スキルは、「学ぶ方法や学ぶことそれ自体を学ぶこと」と言うことができます。

○「学ぶ方法や学ぶことそれ自体を学ぶこと」というのは、結局、自分流の学びの方法やスタイルを身に付けることです。



○教育社会学者の矢野眞和氏らによれば、「専門知識よりは、一般教育などを含めた学習習慣が身についたことが役立つ」の妥当性を示す傾向が見られたことを確認しています。

○認知心理学者・教育心理学者である市川伸一氏によれば、「『学校で習った内容を忘れても残るものこそが、学校教育で大切なものである』などと言われることがあります、そのひ

とつが学習スキル」であると言っています。

○高校までのような主に反復練習による知識暗記型の学びではなく、大学では自分流の学びの方法やスタイルを見つけ、それを習慣にしていくことが重要です。そのことは、大学に在籍している間だけでなく、社会に出てからずっと役に立ちます。

記入日（ ・ ・ ）

<「学習スキルの意義」ふり返しシート>

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・広義の学習スキルとはどのようなものか

・自分流の学び方を身に付けることは、どのような意味で大事と言えるか

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

第5章 大学での学びと単位取得までのプロセス

＜この章の目的＞

◎高校までと異なる点が多いため、大学での学び方がイメージできない人は多いと思います。大学では様々な形式で授業が行われますが、それらの授業の単位を取得するまでのプロセスを示します。この章では、**授業を含めた大学での学習がどう進んでいくのか、イメージしてほしい**と思います。

○大学の授業形式には大きく分けて「講義」、「ゼミ」、「実習・実験」の3つ（当てはまらない形式も若干あります。）があります（参考：世界思想社編、2011、『大学生 学びのハンドブック』）。

○講義とは、「先生が教壇に立って行う大人数の授業」、ゼミとは、「学生が調べてまとめたことを発表し、みんなで議論する少人数の授業」、実習・実験とは「実際に体験したり、調査や実験をしたりし、結果をレポートにまとめる少人数の授業」のことを言います（参考：世界思想社編、2011、『大学生 学びのハンドブック』）。

○これらの授業形態において、単位取得までには①予習をする、②授業に出る、③質問をする、④復習する、⑤報告をする、⑥課題を提出する、⑦試験を受ける、というプロセスを経ると言えます。

○それぞれのプロセスにおいては、下表のような学習スキルが必要と考えられます。

①予習をする	…資料の調べ方、本の読み方
②授業に出る	…ノートの取り方
③質問をする	…質問の仕方
④復習する	…資料の調べ方、本の読み方、ノートの取り方、ふり返り方
⑤報告をする	…プレゼンテーションの仕方、文章の書き方
⑥課題を提出する	…文章の書き方、提出課題の書き方
⑦試験を受ける	…試験対策の仕方

○その他、授業以外にも幅広く応用でき、他のスキルの根幹にあると考えられる学習スキルとして「考える方法」があります。

記入日（ ・ ・ ）

< 「大学での学びと単位取得までのプロセス」 振り返りシート >

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・大学での学び、単位取得のプロセスはどのようなものか

・「考える方法」とは、どのようなものであるか

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

第6章 資料の調べ方

＜この章の目的＞

◎高校時代に主に活用した資料としては、与えられた教科書や参考書・問題集などが主だったと思います。大学は自ら学び、調べ、研究する場所であり、自分から資料を調べることが必要になります。この章では、[図書館やインターネットでの調べ方や、その際に注意すべきことなどを理解して下さい。](#)

○新しい知識の情報源としてはインターネットも有効ですが、学問の基礎や歴史的背景は図書館でしか探せません。また、図書館にある図書は、著者・出版社・図書館職員（司書）が内容とその信憑性を保証しています。

○図書館の本は、類似する本が近くに集まるよう分類されています。蔵書検索で目的の図書が見つかった場合、付近をブラウジングする（見回す）ことも有効です。

○参考書はちょっと確認したい情報や、学術調査の出発点・手がかりとして役立ちますし、学会誌等の最新号は最新の学術情報の動向を知るのに役立ちます。

○全能の図書館はないかもしれませんが、福島県のすべての大学図書館はネットワークを組んでいますので、相互に利用することが可能です。

○図書や論文等の著者には、著作権が認められています。本の全てを複製したり、2部以上複製したりすることは法律違反です。引用する際にも、ルールがあります。

○①インターネットで得られた情報は、鵜呑みにしないこと。②見ている情報の確かさの見極めができること。③インターネット以外の書籍・専門誌等に類似の文献がないか検索すること。④引用のルールを守ること。⑤インターネットから得た資料だけから成るレポートは、自分の学習の力にはならないのでやめること、などの注意が必要です。

○参加者が特定でき、無責任な発言が許されないような電子掲示板や SNS（Social Networking Service）に、明確な目的意識を持って参加することは、有意義です。自分のニーズを満たせるコミュニティを見つけるとよいでしょう。

○情報メディアを批判的に読み解いて、必要な情報を引き出し、その真偽を見抜き、活用する能力のことをメディア・リテラシーといいます。さまざまなメディアを通して得られる情報に対して、能動的な態度を持って接することが重要です。

記入日（ ・ ・ ）

<「資料の調べ方」ふり返しシート>

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・図書館を利用する時のコツや注意点は何か

・インターネット利用で、注意すべき点は何か

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

第7章 本の読み方

<この章の目的>

◎本を読むというのは、簡単そうで意外と難しいです。高校までの教科書や、マンガや小説などを読むときとは違う読み方や、コツなどがあります。本を読まずに大学を卒業することは、絶対にできません。皆さんの学習や研究の成否は読書にかかっていると言っても過言ではなく、いち早く身に付けてもらいたいスキルの1つです。

○WEB上の情報は、内容的に不十分なことも多く、その信頼度についても問題が少なくありません。

○読書というのは活字というメディアを、時には反復しながら自分の眼と頭脳で読みとるといふ、きわめて能動的な行為です。だからこそ、大学で学んだ知識より、読書の習慣を身に付けたことが、職業生活に役立っているという卒業生が多いようです。

○本は数々の著者の知的営みであり、その営みは人類の知的財産を継承するものです。本に凝縮されている最先端の知識は、学ぶに値するものだと言えます。

○読むときにただ目で追うだけではなく、ペンを持ち、自分なりに色分けしながら大事なところをマークしながら読むことがお奨めです。

○本を読む際には、大学に入るまでに高校などで学んできた基礎的な知識が必要になります。

○本の読み方として、①とにかく何が書いてあるか大つかみに把握する段階、②著書の重要な箇所をしっかりと理解する段階、さらには、③自分なりに言い表したり、「わからない」ことが「わかる」段階など、いくつかの段階があります。

○荻谷剛彦氏は『知的複眼思考法』という本の中で、「批判的読書法」という20項目を紹介しています。詳しくは『知的複眼思考法』や『学びのナビ』詳細版を参照してほしいですが、①著者を簡単には信用しないこと、②著者のねらいをつかむこと、③論理を丹念に追うこと、根拠を疑うこと、④著者の前提を探り出し、疑うこと、の4段階があるということです。

記入日（ ・ ・ ）

<「本の読み方」ふり返りシート>

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・本を読むということには、どのような意味があるか

・批判的に読書をする際、どのようなことに気をつけるとよいか

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

第8章 ノートの取り方

<この章の目的>

◎ノートの取り方は、入学して最初に皆さんが苦勞することかもしれません。高校までと異なり、大学ではただ板書を写す授業だけとは限らないからです。しかし、「これがノートの取り方だ！」という決まった方法はなく、**いろいろ方法があること、自分なりの方法を探す必要があることを知ってほしい**というのがここでの狙いです。

○ノートを取る媒体には、冊子状のノート、ルーズリーフ、カードなどがあり、形も様々です。目的や自分にあったものを選ぶことが大切です。

○ルーズリーフをファイリングする人が多いようですが、きちんと整理しなかったり、ノートや資料がばらけたりすると大変ですので、気を付けましょう。

○資料は事前もしくは授業後にWEBに掲載される場合もありますし、何ら指示のない場合もあります。板書やスライドの資料を丸ごと写すのが必要な場合も、そうでない場合もあります。どれを書きとめるべきか、各自判断できるようになって下さい。

○特に入学してしばらくの間、授業の前後、あるいは学生の質問や相談等に応じるために設ける時間である「オフィスアワー」を利用して、教員に相談してみるのもいいでしょう。

○講義で紹介されたエピソードや具体例を、場合によってキーワードだけでも書き取っておくことは、理解を深める上で有効であり、1つのコツと言えるでしょう。

○ノートを取る際、要点、疑問点、課題提示、具体例などを付け加えることも想定し、びっしり書き込まないのもコツの1つと言えます。

○結局のところ、授業によって、また皆さん一人ひとりのやり方によって、ノートの取り方はいくつもあります。

○一人ひとりによっていくつもやり方があるということから、ノートの取り方を扱った本は、詳細版に示す通り多数あるので、見比べてみて自分流の方法を見つけるといいでしょう。

記入日（ ・ ・ ）

<「ノートを取り方」ふり返しシート>

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

• 本章の内容で、なるほどと思えたノートを取る際のコツは何か

• 「講義内容を記録に取る」以外に、ノートの重要な役割は何か

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

第9章 質問の仕方

<この章の目的>

◎わからないこと＝恥ずかしいことではありません。かと言って、なかなか授業で質問しにくい心理も分かります。ここでは、質問の意義と、どうやって質問をしたらいいのかについて、説明をします。これによって、**授業において自分がどう分からなくて、どう質問したらいいかが理解でき、実際に質問する勇気が得られることを望みます。**

○授業中の質問は授業を双方向化させるために意義あるものですので、積極的に出して欲しいです（オフィスアワーという制度も、学生とのコミュニケーションを図るために設定されています）。

○「質問する」こと自体を掘り下げてみますと、「基本となる問題を浮き出させる、問題の表面下のことを探索する、思考しづらいことを追求する、自身の思考の構造を発見する手助けをする、明瞭さ・正確さ・関連性への敏感さを高める、自らの論理によって判断にいたる手助けをする、思考の要素をスポットする案内となる」など、数多くの利点があります。

○ソクラテス問答法とは、弟子との問答によって真理を深める方法に熟達していたソクラテスという古代ギリシャの哲学者が用いていたと言われる方法で、考えを徹底的に掘り下げる効果的な方法です。

○ソクラテス問答法には、明確化を求める質問、理由と証拠を探索する質問、含意と因果関係を探る質問、推測・仮定を探索する質問、視点に関する質問、質問に関する質問があります。

○例えを挙げれば、明確化を求める質問には「～とはどういう意味ですか?」、理由と証拠を探る質問には「どうしてそう分かるのですか?」、含意と因果関係を探る質問には「それはどういう意味を含んでいますか?」、推測・仮定を探索する質問には「他にどんな仮定ができますか?」、視点に関する質問には「違った見方が出来る人はいますか?」、質問に関する質問には「この問題は どうして大切なのでしょうか?」などといったものが挙げられます。

記入日（ ・ ・ ）

<「質問の仕方」ふり返りシート>

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・質問することの意義や意味は、どのようなものか

・質問の種類には、どのようなものがあるか

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

第10章 振り返り方

<この章の目的>

◎近年「振り返り」というのが、学びの過程として注目されています。単に反省するだけでなく、次の学びや活動につながるものだからです。ここでは「振り返り」をするために学習を記録に残す方法として、2つを紹介します。皆さんの実りある学習に役立ててください。

○「振り返り」(reflection)は、意図的に記録に残すという作業であり、最も重要な「学び」の要素とも言えます。

○過去を振り返るということには「反省」とか「省察」という言葉があてられますが、単によくなかったことを思い起こすというだけではなく、今と未来を考えることに通じます。

○振り返りの方法としては、思いついたこと、考えたことを記録に残すことや、学習ポートフォリオなどの方法があります。

○思いついたこと、考えたことを記録に残す際には、以下のようなことに注意しながら書くといいと思われます。

- | | |
|-----------------------------------|--|
| ① 事実を詳しく書いてみる | ② 分析的に書く |
| ③ 説明的な文章で書く | ④ 深く探求するつもりで書く |
| ⑤ 創造的なアイデアを入れてみる、質
疑応答形式で書いてみる | ⑥ それを体験した前と後と比較してみ
る、つまり、何が得られたかに留意する |
| ⑦ 書く内容の優先順位を考える | ⑧ なんの制約も作らずに自由に書く |

○振り返りをシステム化する形である学習ポートフォリオは、学び側の能動的な学習の振り返りによるまとめと自己評価という「新しい評価」の要素が、組み込まれたものです。

○学習ポートフォリオは、能動的な学習をPDCA (Plan、Do、Check、Action) サイクルで実現できるよう支援するものです (『学びのナビ』詳細版を参照)。

○簡略版とは言え、別冊の学習ポートフォリオに記入し活用することで、大きな効果が期待されます。

記入日（ ・ ・ ）

<「ふり返り方」ふり返りシート>

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・「ふり返り」とはどのような意味を持っているか

・PDCAサイクルとは、どのようなものか

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

第11章 文章の書き方

<この章の目的>

◎文章を書くというのは、大学生の最も重要な仕事です。これまで読書感想文などは経験があるかと思いますが、研究をする場所である大学では、レポート・論文（卒業論文）といった新しいタイプの文章を書かなければなりません。「大学生」や「学士（短期大
学士）」の名に値する文章表現力を身に付けましょう。

○1つの形となった文書は、「内容」と「文体（書き方）」という2つの要素から成っています。内容とは「書き手が訴えたい事柄・主張・事実」などのこと、文体とは「内容をどのように書くか」という書き方のことです。

○自分が言いたいこと、書きたいこと、レポートなら自分の学習の成果をアピールする気持ちで書くことが、絶対の必要条件です。

○授業で理解したこと・疑問に思ったこと、などを書くことになりますが、「理解」したことを書くには、先生の話（あるいはプリントの説明文）を繰り返すのではなく、自分なりの言葉でパラフレーズすること、すなわち、言い換えることが重要です。

○ノートを書く時にも、先生の言葉を書き取ったらそれでおしまいではなく、早めに自分なりの「まとめ」を書き込み、さらに復習の段階でノート全体をふり返って、要点を整理すると、いいノートになります。

○「なともだ」とは、「なぜなら」「たとえば」「もし」「だから」という語の頭文字をつなげたものです。まず、これはこうだということを書いた後、この「なぜなら」「たとえば」「もし」「だから」を意識して、内容を書き出していくというものです。

○図書館や本屋に行けば、詳細版の「<他の文献・情報へのガイド>」で紹介した文献をはじめ、文章の書き方に関する本がたくさんあります。中身を見て、自分にあった内容を選んで、自分で理解し、実践することが、よい文章を書く近道と言えるでしょう。

○書いた文章を見直す際には、「誤字や明らかな書き違いの点検」、「推敲（文体、表現の吟味）」、「キーワード、キーフレーズが正しく理解されているか、点検をすること」などが重要です。

記入日（ ・ ・ ）

<「文章の書き方」ふり返しシート>

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・文を書く際に注意すべきことは何か

・文を書く際のコツやヒントで、なるほどと思ったことは何か

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

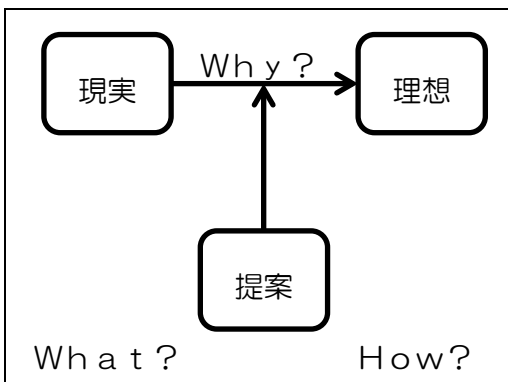
第12章 プレゼンテーションの仕方

<この章の目的>

◎大学生になると、ゼミをはじめプレゼンテーションをする機会が増えます。文章の書き方（第11章）、提出課題の書き方（第13章）、ロジカル・シンキング（第18章）と共通する部分も多いですが、**プレゼンテーションに特有の問題点をお伝えします。聞き手にとって、分かりやすいプレゼンテーションができるようになることを望みます。**

○文章に2つの要素、すなわち「内容」と「文体」があったのと同じように、プレゼンテーションにもやはり「内容」と「方法（伝え方）」の2つの要素があると言えます。

○限られた時間内で聞いただけで分かるように、動機、背景、肝心な点、要約、結論、将来展望という内容を検討しましょう。



永田氏による図解

○いきなり資料を作り始めるのではなく、きちんと構想を練ることが大事です（構想を練る際の例：左図）。

○問題認識、結論、根拠となる分析などを内容とし、聞き手を意識して、分かりやすく順序立った中身としましょう。

○方法の問題としては、①話し方、②資料の作り方、③その他の問題に分けられますが、

実はそれぞれは密接に結びついている部分もあります。

○プレゼンテーションでよく見かける失敗はいずれも構想段階での失敗とつながっていて、目的・要点・結論などの全体像がはっきりしないままプレゼンテーションに臨んでしまうことから起こっていることだと考えられます。

○あれこれ詰め込むのではなく、言いたいことをはっきりさせ、図表を効果的に用いながら、ゆっくりと説明することが大事です。

○聞き手の立場に立って構想をしっかり練れば、「方法（伝え方）」の問題の大部分は解決されるものかもしれません。

記入日（ ・ ・ ）

<「プレゼンテーションの仕方」ふり返しシート>

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・プレゼンテーションの内容について、注意すべきことは何か

・プレゼンテーションの方法について、注意すべきことは何か

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

第13章 提出課題の書き方

＜この章の目的＞

◎大学では、レポートが一般的になってきます。高校までに書いてきた感想文などと比べて、レポートはどのような違いがあるのか説明し、書く際の注意事項やポイントを紹介します。多くの学生さんが戸惑うレポートの書き方について、いち早くその書き方を身に付けてもらいたいと思います。

○レポートとは、「調査や研究の報告書」という意味、つまり、何かを調べ、何がわかったのかを説明する文章のことです。試験に代わる代替物から授業時間内に提出する簡易報告書まで様々なものがあり、目的や機能によって使い分けられます。

○レポートの一般的な書き方のポイントをまとめると、以下の通りです。

- ①何を中心に書くのかよく考え、テーマを定め、適切な表題をつける。
- ②そのテーマについて、書くべき資料・情報を収集する。それをKJ法とか、マップ式ノート術を使って自分なりに客観的に整理する。
- ③テーマとそれについての内容（事実、学説、異説）などの中から、自分なりの意見をまとめる。これを「考察」という。考察は説得力が重要なので、そう考えた理由や根拠を示すことは必須。
- ④考察から導かれる結論を端的にまとめる。なお、学んだことを前提にして、そこから湧いた疑問や発展的な問題等を書くことは大いに推奨できる。
- ⑤これらを、序論、本論、結論、を意識して、構成を予め考えておく。そして、読む人が先生であっても、何も知らない人を想定して丁寧に書く。
- ⑥事実や学説などを示す客観的な文と、自分自身の見解などの文を区別して書く。
- ⑦引用などは、しっかりルールを守る。文献・資料などからの引用は、必ず「 」で示し、どういう資料の何頁かを、「 」の後の（ ）内に書く。「 」の中は原文を正確に写し取る。（ ）を、引用注という。

○「無断引用」「剽窃（ひょうせつ）」は、不正行為ですから絶対やってはいけません。

○しっかりした内容のレポートが書けるということは、「おとな」であることの入り口に立つ資格ではないかと思います。

記入日（ ・ ・ ）

<「提出課題の書き方」ふり返しシート>

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・レポートとは、どのようなものか

・レポートを書く際のポイントとして、重要だと思うこと、その理由は何か

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

第14章 試験対策の仕方

<この章の目的>

◎大学の学びが高校以下の学びと異なるように、試験対策の方法も高校までとは異なります。ここでは、大学における試験の意味とその対策方法（良い方法と悪い方法）や注意点を紹介します。高校までとは異なる試験対策があること、また、それが前章までで示してきた学習スキルと強い関連があることを理解して下さい。

○「試験」には正規試験および平常試験があります。正規試験は試験・補講期間中に実施される試験、平常試験は授業期間中に実施される試験で、取り扱いが異なります。

○試験の際、カンニングなどの不正行為に対しては重い処罰（退学になることもあります。）が待っていますので、絶対にやってはいけません。

○成績評価は、試験の代わりにレポートで代替したり、出席や平常の受講状況を加味したり、調査結果の発表を重視するなど、様々な角度から行なわれます。シラバス等にある評価方法をよく理解しておくことが重要です。

○基本的な対策の1つとして、『学びのナビ』に書かれている学習スキル全般を読んだ上で、それらを総動員して、あるいはその中のスキルを適宜応用することをお勧めします。

○試験一般に共通すると考えられるアドバイスとして、①応急対策はしないこと、②講義内容を復習したり、各テーマのキーポイントを確認したりすると同時に、学んだ内容を再確認しておくこと、③他人のノートをあてにしないこと、④オフィスアワーを活用したり、平常授業時に的確な質問をどんどんすること、⑤一緒に授業を受けた仲間と問題を出し合って、答えを考えながら議論し、復習すること、の5つを挙げておきます。

○「大学の試験は、簡易な対策で乗り切れる」というように考えないほうがいいです。この『学びのナビ』で学習の仕方を書いているのも、試験対策という「付け焼き刃」ではなく、本当の「学び」をしてほしいからに他なりません。

記入日（ ・ ・ ）

< 「試験対策の仕方」 振り返りシート >

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・大学の試験は、どのように行われるものか

・大学の学びの特質に関連付けると、試験対策とはどのように説明されるか

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

第15章 考えることの4つのレベル

<この章の目的>

◎前章まで狭義の学習スキルを扱ってきましたが、ここからは「考える」ということを考えていきます。ここでは、「考える」ことのレベルを想定し、それぞれの違いを説明します。「考える」ことを「考える」ことで、**自他の学びのレベルについて客観的に考え、深化させられるようになることを望みます。**

○「考える」ことには、いくつかのレベルを設定することができます。この『学びのナビ』では、便宜的に4つのレベルを想定しています。そうしたレベルを想定することで、「知識」を持つ人の知識レベルを「評価」することもできます。

○「考える」ことや理解度のレベルが上がる（深化する）ということは、誰でも知っているような常識的なレベルから、次第に本質的で深い認識段階へと進んでいくことを示していて、その段階を意識化したものが「詳細版」の表に例示されています。

○「考える」ことや理解度のレベルが上がる（深化する）ためには、授業や参考書が助けになるのは当然ですが、原動力は学ぶ人の「知りたい」という意欲、「なぜ」を追求する「好奇心」だと言えます。

○例えば、マップ（第19章参照）なら、その出来具合で、書いた人がどこまで自分の考えが進んだか自己診断出来るし、他人もそれを見て理解や思考の度合いをある程度判断出来ます。そういう思考の法則、技法、スキルを学ぶことで、考えるレベルを可視化することは、学習レベルを意識化出来るという意味でも、大変重要なことです。

○単に知識があるということにとどまらず、日常の生活場面に生かせるような知識のありようが求められています。

○現実世界においては、「考える」ことの中に価値判断を伴うものもあります（詳細版参照）。価値判断を伴う場合には、1つの解答を出すことは難しいですし、考えのレベルを基準化することも困難です。

○自分の作業レベルを自己判断することは、実際には難しいことです。この能力は、独学よりも、ゼミなどの発表・議論・批評というプロセスの中で、自分のレベルを他の学生と比較するなどして身につけていくのが一番だと思います。

記入日（ ・ ・ ）

<「考えることの4つのレベル」ふり返しシート>

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・「考える」ことを「考える」とは、どういうことか

・思考のスキルを学ぶことには、どのような意味があるか

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

第16章 KJ法

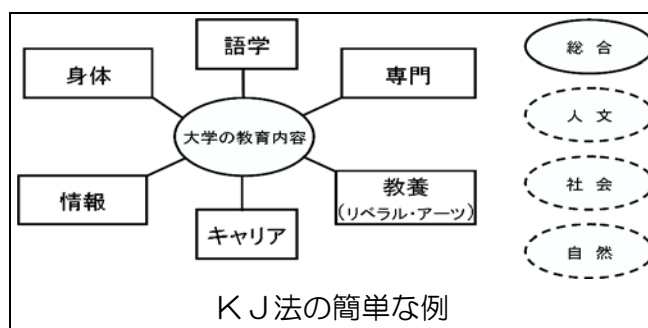
<この章の目的>

◎ここでは、発想法の1つであるKJ法（開発者の川喜田二郎氏のイニシャルに由来）について紹介します。大学生活での重要な経験は「研究」にあると言えますが、発想法が命と言っても過言ではありません。研究テーマを決めたい時、あるテーマについての理解を深めたいときに役立つKJ法の意義や方法を理解しましょう。

○KJ法は、キーワードを小さな紙片（カード）に書き出し、それをグルーピングしたり、順序などの配列を考えたり、自由に動かし、思考を柔軟に進めるための方法です。

○フィールドワークの際、新たな発想を生み出すスキルとして開発されたものですが、読書にも応用が利きますし、いろんな活用が考えられます。

○キーワードを書いた紙片（カード）を自由に動かせるため、グループ討議の際、あるいは発表の際、模造紙に字を書くだけでなく、紙片を貼り付け、質疑や議論で動かしてみる、というような使い方もできます。



○具体的な手順は、①用意した多量の紙片に思いつくかぎりの、大テーマ・小テーマにかかわるキーワードを書きこみ、②ある程度の量になったら、それをグルーピングして、配列を考え、③一枚ごとの関連や、グ

ルーピングした「島」の相互関係を線で結んだり囲んだりしてみると、ウェブ（網）模様の平面的な関係図ができる、という感じです。こうした思考力の作業は極めて重要で、かつ応用性が高いと言われています。

○課題レポートやゼミの発表レジュメづくりの準備は、このようなKJ法などの「発想法」を通して「構造化の方法」を習得するチャンスでもあります。

○分類をすることだけが課題ではなく、紙片を貼ってみてから、位置を変えるなどの作業は、欠けているものがないのかという発見の過程でもあります。

○「習うより慣れる」で、自分であれこれと試行錯誤してみましょ

記入日（ ・ ・ ）

< 「KJ法」ふり返しシート >

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・KJ法とは、どのようなやり方をするものか

・KJ法の意義や、KJ法が力を発揮する場面はどのようなものか

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

第17章 クリティカル・シンキング（批判的思考）

<この章の目的>

◎クリティカル・シンキングとは、情報を鵜呑みにせず、思考すること、思考することです。ここでは、大学の学びに役立つクリティカル・シンキングそのものを理解することはもちろんながら、クリティカル・シンキング以外の様々な「思考（力）」について興味を持つことを望みます。

○クリティカル・シンキングとは、1980年代以後の大衆化したアメリカ合衆国の大学で提唱され、アメリカの大学の教養教育の中核をなすものといえるもので批判的思考ともよばれています。

○クリティカルとは攻撃的・否定的な意味というよりは、むしろ創造的・建設的というべきものです。

○ノン・クリティカルな思考とは、普段あまり考えもなしにやりがちなこと一決めつける、すぐ結論を出す、考え直さない、感情にまかせる、他人の意見に同調するなど一のこと、こうしたものの対極がクリティカル・シンキングというわけです。

○クリティカル・シンキングとしては、1つの事実から、どのような結論を得るかという場合に、決して1つの結論しかないというわけではなく、様々な可能性を考える必要があるということになります。

○普段から誰しも結構クリティカル・シンキングをしているので、自分はクリティカル・シンキングは無理だと思い込まないようにして下さい。

○大学でのクリティカル・シンキングは、得た情報に対する批判的な受容をする習慣をつけるなど、日常レベルのことを高度な思考で吟味する力を含みますし、レポートや論文を書くという本格的な課題探求の際の必須の思考力を意味することもあります。

○クリティカル・シンキング以外にも、思考（力）にはいろいろあります。クリティカル・シンキングをクリティカル・シンキングするということに到達できれば、言うことありません。

○結局のところ、考えるということは、頭をフルに働かせるということです。

記入日（ ・ ・ ）

<「クリティカル・シンキング（批判的思考）」ふり返しシート>

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・クリティカル・シンキングとは、どのようなものか

・詳細版にある練習問題をやってみましょう

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

第18章 ロジカル・シンキング（論理的思考）

<この章の目的>

◎ロジカル・シンキングは、近年特にビジネスの世界で発展してきた思考法と言えます。前章のクリティカル・シンキングとは異なる角度から、思考（力）を考えるものです。ロジカル・シンキングの考え方を理解し、研究報告等の際に応用できることは何かを各自でイメージしてみてください。

○ロジカル・シンキングとは「筋道を立てて考えること」であり、特に、「目標を明確にし、どうしたら最小限の労力で目標を達成できるかというシナリオを筋道を立てて考えること」などと言われています。

○ビジネスの世界で独自の発展を遂げ強調されるようになったロジカル・シンキングは、必ずしも「論理学」のような厳密性を持たない部分もあるのですが、趣旨を理解し必要な追加や修正を加えれば、他の分野、あるいは普通の人が直面する日常の課題に対しても有効に活用できる場合が少なくないでしょう。

○ロジカル・シンキングでは、「思考とは問いを立てて答えを出すプロセス」であるとか、「問題とは目標と現実との差」であり、「その差がどうして生じたのかがその原因」と説明されることがあります。

○大学という世界も、多様な学問、多様な理論や学説が集まり、多様な人々が集まっている世界ですから、その中で自分の考えをきちんと伝え、理解や支持を得るためにも、このようなロジカル・シンキングの訓練をしておくことは有益でしょう。

○ロジカル・シンキングで推奨されている思考方法や技術のうち代表的なものとして、①当面の問題に関連する「フレームワーク（枠組み）」を的確に把握すること、②フレームワークを考える際にはもちろんのこと、様々なデータの取得や処理に際しては「モレやダブリがない（Mutually Exclusive Collectively Exhaustive：MECE（ミーシー）」ように留意すること、③効果の程度や実現可能性などを検討できるように、「原因の仮説」をツリー状に構成した「イシュー・ツリー（または、ロジック・ツリー）」を作成すること、の3つが挙げられます。

記入日（ ・ ・ ）

<「ロジカル・シンキング（論理的思考）」ふり返しシート>

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・ロジカル・シンキングとは、どのような考え方が

・ロジカル・シンキングで推奨されている方法や技術は、どのようなものが

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

第19章 マインドマップ

<この章の目的>

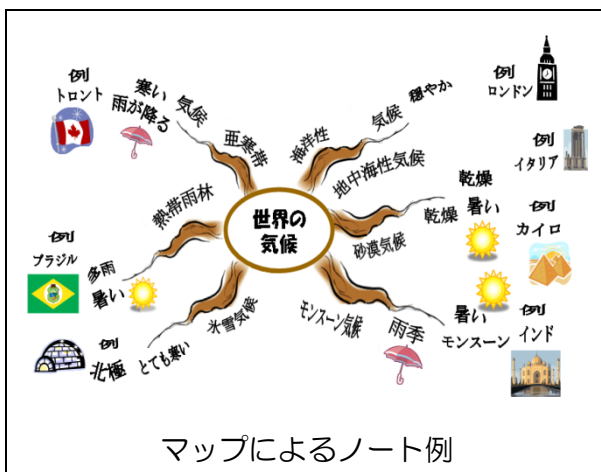
◎マインドマップは図解表現技法の1つで、やはり思考を整理したり、知的生産をしたりするための方法と言えます。マインドマップの考え方を理解し、研究報告等の際に応用できることは何かを各自でイメージしてみてください。

○マインドマップは、紙の中心に最も重要な「テーマ」を置き、それを構成するべき項目を放射状の枝に見立て、階層をつくりながら伸ばしていく書き方です。

○マインドマップはあらゆる用途に使用でき、学習能力を高めたり、考えを明らかにしたりするのに役立ち、生産性の向上が可能になると言います。

○マップを書く際の、簡単なコツとしては、以下の5つが挙げられます。

- ①中心に何を置くか、が重要です。右上から下へと、時計回りに枝を加えます。
- ②枝分かれしていく際には、大きなものから小さなものへ、抽象的なものから具体的なものへ、など「階層」に気をつけます。
- ③文字だけでなく絵や記号もOKです。というより、絵など手書きがとても有効です。
- ④色を使い分けるともっと良いそうです。
- ⑤書いた後、修正した方が良いことが発見できるでしょう。



○マインドマップは、1つのキーワードを起点として、その関連事項をどんどん発想を豊かに書き足していくような場合とても効果的ですが、逆に、そのキーワードの設定が適切でなかったり、そういう発想のやり方ではうまく行かない場合もあることには注意が必要です。

※マインドマップは、ブザン・オーガニゼーション（現・ThinkBuzan: <http://www.thinkbuzan.com>）の登録商標です。

記入日（ ・ ・ ）

<「マインドマップ」ふり返しシート>

※この章の内容から、あなたは何を学びましたか。
理解したこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、
次のポイントごとに、あなたの言葉で記入して下さい。

【この章で理解したこと】

・マインドマップは、どのような特徴を持っているか

・マインドマップを作るには、どのようなことに気を付けたらいいか

【この章で考えたこと・疑問に思ったこと】

編集後記

本書は、文部科学省大学間連携共同教育推進事業「ふくしまの未来を拓く「強い人材」づくり共同教育プログラム」の支援を受け、発行したものです。本事業のプロジェクトのひとつである、「開かれた内部質保証システム」のモデル開発においては、「学修の基盤となる初年次教育プログラムの開発」を行うことを柱のひとつとしており、本書はその計画を受けて発行されたものでございます。

今回お届けする『学びのナビ』は、昨年度まで文部科学省より支援を受けていた「高等教育コンソーシアムふくしま」の構築による広域連携型学士力向上プログラムの一環で発行してきた『学びのナビ』全県版を下敷きにしたものとなっております。本書は、前事業の成果を適切に継承した上でこの事業での本格的改訂を図っていくために、今回は前事業期間中に大幅改訂を加えた最終年度版（平成23年度版）に若干の修正を加えるにとどまっております。本事業は、2012年10月より実施が認められ、まだ始まったばかりのものであり、ひとつひとつの取組を試行錯誤しながら行っております。本書についても、今回の事業の連携校に利用される中で、適切な改訂を重ねていくことが必要不可欠であると存じます。つきましては、何卒皆様のご助言を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

この『学びのナビ』は、2008年度に福島大学で試行版が、2010年には全県版が作成され、毎年改訂を重ねてきました。この過程において、福島県内の高等教育機関に在籍する多くの教職員の皆様方に執筆のご協力を頂いてまいりました。末筆ながら、これまで本書作成・改訂の過程でご助言・ご協力いただいた県内各大学の教職員すべての皆様方に感謝申し上げます。

「ふくしまの未来を拓く「強い人材」づくり共同教育プログラム」
「開かれた内部質保証システム」のモデル開発」担当：渡部芳栄
丸山和昭
高森智嗣

ふくしま版学習ガイドブック『学びのナビ』2013年

発行 2013年1月

編集 「ふくしまの未来を拓く「強い人材」づくり共同教育プログラム」
「開かれた内部質保証システム」のモデル開発」

発行所

氏 名	
-----	--